

平成30年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	地域や産業を支え 新しい時代を切り拓く 創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	---------------------------------------

重点目標	1 専門教育の深化と学力の向上を図り、第一志望の進路を実現する力を育てる 2 自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域等との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	14名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
平成30年度評価(1月30日現在)							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・生徒は穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・大学進学者が増加傾向にある。 【課題】 ・専門教育を深化させ生徒の学習意欲をさらに高めるとともに、確かな職業観を育成する必要がある。 ・学習評価の工夫改善に取り組む必要がある。 ・国公立大学への進学をはじめとする生徒の高い志を育成する必要がある。 ・学科の垣根を越えた生徒が互い刺激し合い主体的に学ぶ機会をより多く提供する必要がある。	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ○学習評価の工夫改善 ○進路実現100%に向けた進路指導	①ICTの適切な活用による授業改善及び授業公開の実施 ②主体的・対話的で深い学びの視点による課題研究の実施 ③各学年における段階的進路指導の実施	①生徒アンケートによる授業満足度 ②適切なICTの活用状況 ③主体的・対話的で深い学びの視点による課題研究の実施状況 ④生徒の進路意識の向上と進路実現に向けての取組状況	○継続的な取り組みを通して、生徒の自主性・主体性が出ている。 ①生徒の授業アンケートでは、73%の生徒が「わかりやすい」と回答しており、概ね達成できた。 ②社会・理科・数学・保健体育等、積極的にICTの活用をしている。 ③県指定の「次代を担う産業人材イノベーション事業」を実施し、より専門教科の深化が図られた。 ④各学年では、朝自習を実施し基礎学力の向上につなげ、進路指導部で計画的・系統的に3年間を見据えた進路説明会を計画実施できた。今年も、第1希望企業への内定率が93%と昨年より3ポイント増加した。	B	①ICTを活用した授業が多くなっている。今後も引き続き授業研究に取り組み、生徒の授業アンケートにおいて80%以上の生徒から「わかりやすい」と回答が得られるように努める。 ②県の事業を積極的に活用し、地域や企業等との連携を更に推進するとともに、工業高校の特色を生かした教育につなげていく。 ③進路意識を早期に持たせることにより、希望通りの進路実現を目指す。そのためにも、朝自習等で基礎学力の向上へつなげたい。
2	【現状】 ・挨拶、身だしなみ、清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・部活動や生徒会活動などが、自主的・主体的に行われている。 【課題】 ・生徒一人一人が高校生活に充実感を持ち、さらなる高みを目指す必要がある。 ・部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援し、学校全体の一体感を醸成し、さらに自校に誇りを持たせる必要がある。	○生徒の心身の成長と規範意識の向上 ○部活動・生徒会活動のさらなる活性化 ○資格取得やコンテスト等への挑戦	①日常の組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等の実施する。 ②部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティアをとおして、生徒の多様な経験を支援し小さな成功を積み重ねさせチャレンジ精神を醸成する。 ③志を高め、確かな職業意識を確立させるための講演や特別講義の実施する。	①生徒の挨拶、身だしなみ、清掃など、基本的な生活習慣の状況 ②学校行事・部活動・生徒会活動の取組状況 ③生徒アンケートによる学校への満足度 ④外部講師等の活用状況及び資格取得やコンテスト等への取組状況	○継続的な生徒指導の効果が出ている。 ①多くの教員と生徒会の生徒や保護者の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動が行われた。来訪者の方からお褒めの言葉をいただくなど、生徒の挨拶や身だしなみは良好である。 ②学校行事への保護者の参加も多く、生徒も積極的に活動に取り組んでいる。工業祭(文化祭)には、約4千人の来場者があった。 ③部活動や行事等の生徒アンケートでは、約60%の生徒から「満足している」との回答があった。 ④難関国家資格の「電気通信設備工事担任者 総合職・ボイラー技士1級」に合格。また、「第1種電気工事士」に20名の合格者を出す等、より高い目標に果敢にチャレンジする生徒が増えた。	B	①1年次からの学年全体での継続的な生徒指導が実を結び、学年が進むごとに、あいさつや身だしなみは大変良好である。学校全体で生徒を見守る体制を更に強化するとともに、心のこもったあいさつや遅刻者の減少に結び付ける。 ②学校行事や部活動・生徒会活動の保護者の理解の下、生徒がのびのびと活動できるよう、更に安全・安心な環境の提供に努める。 ③生徒アンケートの「部活動・学校行事の満足度」を10ポイント向上させられるように努める。 ④「ホンモノ」に触れる機会を大切に、生徒の感受性・可能性やより高い目標を持たせるために、専門家や技術者などの外部講師を招へいする。
3	【現状】 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信している。 ・地域と連携した教育活動が行われている。 【課題】 ・社会に開かれた教育課程の実現に向け取り組む必要がある。 ・ホームページを再編成する必要がある。	○ホームページ等による積極的な情報発信 ○社会との連携による教育活動	①ホームページや広報紙等を活用した日々の教育活動を積極的に発信する。 ②ホームページの更新方法等の研修会を実施する。 ③保護者のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。 ④社会と連携した事業を積極的に実施する。	①ホームページ更新状況 ②研修会の実施状況 ②保護者アンケートによる学校への満足度 ③社会と連携した事業の取組状況	○学校ホームページや様々なメディアを活用し、積極的な情報発信の効果が出てきている。 ①積極的に更新するよう情報発信に努めた。 ②各学年の学年だよりや保健室だより、長期休業前の生徒指導部からのお知らせを発行している。保護者アンケートでは、98%の保護者から「川越工業高校に入学させてよかった」と回答があった。 ③近隣の丸広百貨店との連携「こども工作体験教室」をはじめ、かわごえ産業フェスタ(川越市主催)・ミニかわごえ(商工会主催)等、地域や企業に積極的に参加できた。地域の学校理解につながった。	B	①学校ホームページの中には、まだ、更新されていないページが見受けられるため、誰もが更新できるように改善に取り組む。 ②「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、工業高校の特色を生かした地域連携に取り組む。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成31年2月8日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・第3回「五科合同課題研究発表会」が、今回も見ることが出来て大変良かった。生徒の感想からも「自分の学科以外の発表を見ることが出来て良かった」また、「他学科の人にわかり易く説明することの難しさを知る良い機会でした」と他学科の生徒同士の交流がある有意義な取組になっていた。	
・ICTを活用した授業が増え、授業がわかりやすいと回答した生徒が多いということは、授業研究を良くなされていることだと思います。さらに研究を重ね、内容を増やし国際化に向けて、英語はさらにもっとやってほしい。	
・3ヶ年皆勤が昨年と比べ20名増え70名とは、すばらしいと思います。	
・生徒会の生徒があいさつ運動に参加し、一緒に声かけをするようになり、登校時だけでなく普段の時も生徒から元気のよいあいさつがあり、非常に気持ち良く学校に入れた。是非、学校全体で継続して取組み、あいさつがしっかりできる明るい学校・楽しい学校を継続してほしい。	
・工業祭は、来場者数4000名と多く活気がある。	
・学校ホームページを見ることによって、学校の様子がわかる。各学科の取組や部活動の活躍、校長のブログはよく見る。	
・事務室からの保護者あて通知を配布した際は、一斉配信メールで連絡をするなど対応してくれて良かった。学校からの保護者あて通知についても同様をお願いしたい。	